

第1回学校運営協議会議事録

校名	大阪府立市岡高等学校
校長名	徳永 達志

開催日時	令和8年6月23日(火)16:00~
開催場所	大阪府立市岡高等学校 2階 会議室
出席者(委員)	福島秀晃会長、鍋谷賀都緒副会長、木村幹彦委員、 多田裕亮委員、笠井やよい委員、米山有理委員
出席者(学校)	徳永達志校長、河村未来教頭、小田智子事務長、柴田卓教諭、水野翔平教諭、島田浩史教諭、森谷晃子教諭、大倉哲也教諭、上垣内崇裕教諭、荒木ちひろ教諭、中野瑛教諭、黒味真教諭、杉田紗也香教諭
協議資料	・市岡高校卒業生の進路状況と入試結果 ・令和8年度 学校経営計画及び学校評価 ・令和9年度 使用教科用図書選定理由書
議題等	
(1) 学校長あいさつ (2) 学校運営協議会委員 紹介 (3) 学年主任紹介 (4) 確認・報告事項 ① 令和7年度卒業生の進路状況と取組みの状況について、令和8年度学校経営方針について ・令和7年度卒業生（78期生）進路状況について報告 ・令和7年度「学校経営計画および学校評価」について ・令和8年度「学校経営計画および学校評価」について ② 「令和9年度使用教科書選定」について ③ 令和8年度授業アンケート実施について (5) 協議 ① 地域連携と広報について ・その他 次回の開催について（11月） 連絡方法について	
協議内容・承認事項等(意見の概要)	
(3) 学年主任からの報告 ・ 1年： 学校生活に慣れてきた。 ・ 2年： 中だるみの心配がある。 ・ 3年： 進路に向けて進んでいる。	

(4) 確認・報告事項

① 令和 7 年度卒業生の進路状況・令和 8 年度学校経営方針について

【令和 7 年度卒業生（78 期生）進路状況報告】

- 基本方針： 第一志望にこだわらせる方針で進めていく。
- 昨年度入試の特徴： 年内入試の拡大と、一般入試の難化。
- 成果：
 - 国公立大合格者の増加： 担任の声掛けにより、理系を中心に地方（徳島大学など）の受験者が増加。
 - 国公立大推薦入試の合格者増加： 計 8 名合格。
- 課題： 関西難関私大（関関同立）の合格者が減少、産近甲龍の合格者が増加。

【令和 7 年度「学校経営計画および学校評価」について】

3. 本年度の取組内容及び自己評価

- 1 「確かな学力」の育成
 - （1）ア 大学合格者の目標人数： 自己評価 ○ （昨年度を上回ったため）
 - （2）イ 教員「授業での ICT 機器の効果的な活用」： 自己評価 ○
- 2 「主体性・自律性」の醸成
 - 全体的に◎が多いが、（1）エ オープンスクールの参加総数が「△」となっている。
 - 対策： 新たな広報活動の在り方を、今年度実践する。
- 3 組織力の向上と「働き方改革」
 - （2）ア 時間外在校等時間月平均 36 時間： 自己評価 △
 - 対策： 体育館やグラウンドなど、同じ場所で活動している部活動は教員 1 人で見えるなどの対策が必要。

【広報活動に関する質疑応答】

Q. 広報予算の使い道をどうするか？

現状・背景： 定員割れは公立だけの問題ではない。大阪府の計画進学率がコロナの影響で 90%を切っており、進学率が減れば予算は出せない状況。なお、現在の公立・私立の希望者比率は「6：4」となっている。

【令和 8 年度「学校経営計画および学校評価」について】

- 基本方針： 目指す方向は昨年度と変わらないが、いくつか変更点あり。
- 2 中期的目標：
 - 1 「確かな学力」の育成： 実進学者数を 100 名以上とする。
 - 2 「主体性・自律性」の醸成： （2）ウ「総合的探究の時間の充実度」アンケートの肯定的回答率 95%以上の維持を目指す。
 - 3 組織力の向上と「働き方改革」： 時間外在校等 720 時間を超える教職員をなくす（生成 AI を活用したい意向）。

【総合探究・地域連携・ICTに関する質疑応答】

Q. 総合探究についての3年間の見通しは？

- 1年生：「問いを立てる」段階。
- 2年生：地元地域や北海道への修学旅行を通じて深め、地域の困りごとを調査・探究。
- 3年生：それぞれの探究課題についてプレゼン発表を行う。
-
- **地域との連携について：**
- **事例：**夏にミズノと連携したプログラムを有志で実施（テーマ：「10年後の部活の有り方」）。スポーツ人口の減少に関わる課題に対し、実際に社会でチャレンジ・実践する場を作りたい。
- **地域行事：**祭りの実行委員として本校生を送りたいが、まずは自転車の整備など出来ることから始める。一足飛びに大きなことは難しいため、段階的に進める。
- **課題：**中学校での探究活動や地域との連携には、まだ課題が多い。

- **ICTの活用と大学・社会を見据えた視点：**
- 大学での課題提出はプレゼン形式など「考えて提出するもの」が多く、学生が苦勞している現状がある。高校でのICT活用は、大学入学後やその先を見据えて取り組んでほしい。
- AIをうまく使える大学生が増えている一方、プレゼン能力等は高校のうちに「総合的な探究の時間」で身につけておくと大きなアドバンテージになる。

② 「令和9年度使用教科書選定」について

- **状況：**既に選定済み。

③ 令和8年度授業アンケート実施について

- **日程：**7月13日～15日にて実施。

(3) 協議 [地域連携と広報について]

【校長からの提示・方針】

- **価値の再定義：**今ある要素（伝統、自彊の精神、勉強・部活・行事の3本柱）をきちんと伝えることに価値がある。
- **オープンスクール（OS）の重要性：**学校選びで一番大事な要素。どうすれば来てもらえるか（年5回開催、特に11月が重要）。
- **SNS発信の強化：**
- **HP：**リニューアル中（7月末完成予定）。
- **公式LINE：**登録を促し、情報発信の主要な手段とする。
- **Instagram：**PTA活動の活性化（いいねのサポートなど）。
- **中学校訪問：**引き続き力を注いでいく。

【出席者からの意見・アイデア】

- **LINE登録を促すアイデア・導線：**

- 中学生は「部活動の最新状況」を見たい声が多い。部活動ごとのアカウントが孤立しないよう、ハッシュタグの統一や、必ず公式 QR コードを載せるなどのルール化を行うとよい。
- 生徒や保護者がよく行く場所に QR コードを設置し、スキャンしたくなる工夫をする。特定のまとまった区やエリアに向けてセグメント発信する。
- **YouTube の活用とコンテンツ改善：**
 - OS に来られなかった層へのアプローチ手段として YouTube を活用する。再生回数を伸ばすため、内容のリニューアルや公式キャラクター「じっきょん」の認知度を上げる。
 - 「自転車通学が可能」「保護者世代に響きやすい伝統」などを推しポイントとして動画にする。
 - 校内の様子を撮影し、チャンネル名やアイコンを揃えて公式感を出す。縦型動画（ショート、リール、TikTok 等）はあらゆる SNS に横展開できるため有効。
 - 「じっきょんの歴史」「駅からの行き方」「通学路にある個性的なお店紹介」など、興味を引きやすい動画を作成する。
- **中学校の進路指導における課題：**
 - 中学校の進路指導で「市岡」の名前があがりにくい、勧められない傾向がある。単位制が少し分かりづらいのが原因か。
 - 中学校の先生（特に若い、進路指導が初めての先生）へのアピールとして、Instagram や YouTube が効果を発揮するのではないか。高校側からの積極的なアピールが重要。
 - 中学校の先生によって勧め方に差があるのか、要検証。
- **現状の障壁：**
 - 現在は文化祭の準備等で手がつけられていないが、動き出してはいる。ただし、現在は写真中心の運用であり、動画はプライバシー（生徒の顔映り等）の問題があるため、なかなか進めづらい背景がある。

その他

- **次回協議会：** 11 月 9 日(月) 16:00～
- **連絡手段：** 今後の連絡はメールで行う。